



栗氏魚譜

介類

四

因  
出  
中

從  
元

由  
本

栗氏魚譜  
栗氏魚譜  
栗氏魚譜

栗氏魚譜  
栗氏魚譜





鸚鵡貝

一曰

余十餘年

一曰

余後字

伊藤富平氏

鸚鵡螺

○蘇頌曰鸚鵡螺形如鸚鵡頭並可作盃證類本草引

○嶺表錄異曰鸚鵡螺旋尖處屈而味如鸚鵡嘴音故以此名殼

上青綠斑大者可受二升殼內光瑩如雲母裝為酒杯奇而

可玩

○時珍曰鸚鵡螺質白而紫頭如鳥形其肉常離殼出食出則

寄居蟲入居螺還則曳出也肉為魚所食則殼浮出人因取

之作杯本草綱目

○續脩臺灣府志曰肉螺大五六寸味苦切其殼用作鸚鵡杯

○海槎餘錄曰鸚鵡杯即海螺產於文昌海面頭淡青色身白

色周連間赤色數稜好者專用全廂飾凡頭脰足翅俱備置

之几案亦異常耳





○異苑曰鸚鵡螺形似鳥故以為名常脫殼而遊寄居負殼者也

宋鸚鵡螺琉球地方所產九穴介是也宋九蓋屈結海中亦有焉狀圓扁屈結而有虎文倒置而視之如鸚鵡嘴故名殼中有隔深僅寸許此其生肉處想殼大而肉小故肉尤特易脫耳寬政戊午仲春先足西湖君奉命採藥於伊豆七島於二料組地名獲之大一經五寸六一其狀如蜘蛛行走極疾因其寫真以歸吾宋是所謂寄居負殼者而非其本性然亦罕見矣故今摹其圖備遺忘







栗 四  
板屋介  
紀卅六百介品ノ中

帆立介 漢名海扇  
如上  
上ツタ介 堅立帆ノ

栗 四ノ 五



栗 四ノ 二  
半邊蚶 清俗  
イタヤ介 又杓子介  
今介杓子ニ用ユ介ナリ

花イタヤ  
紀卅六百介品中ノモノ

栗 四ノ 三







魚冠介

栗

四

六





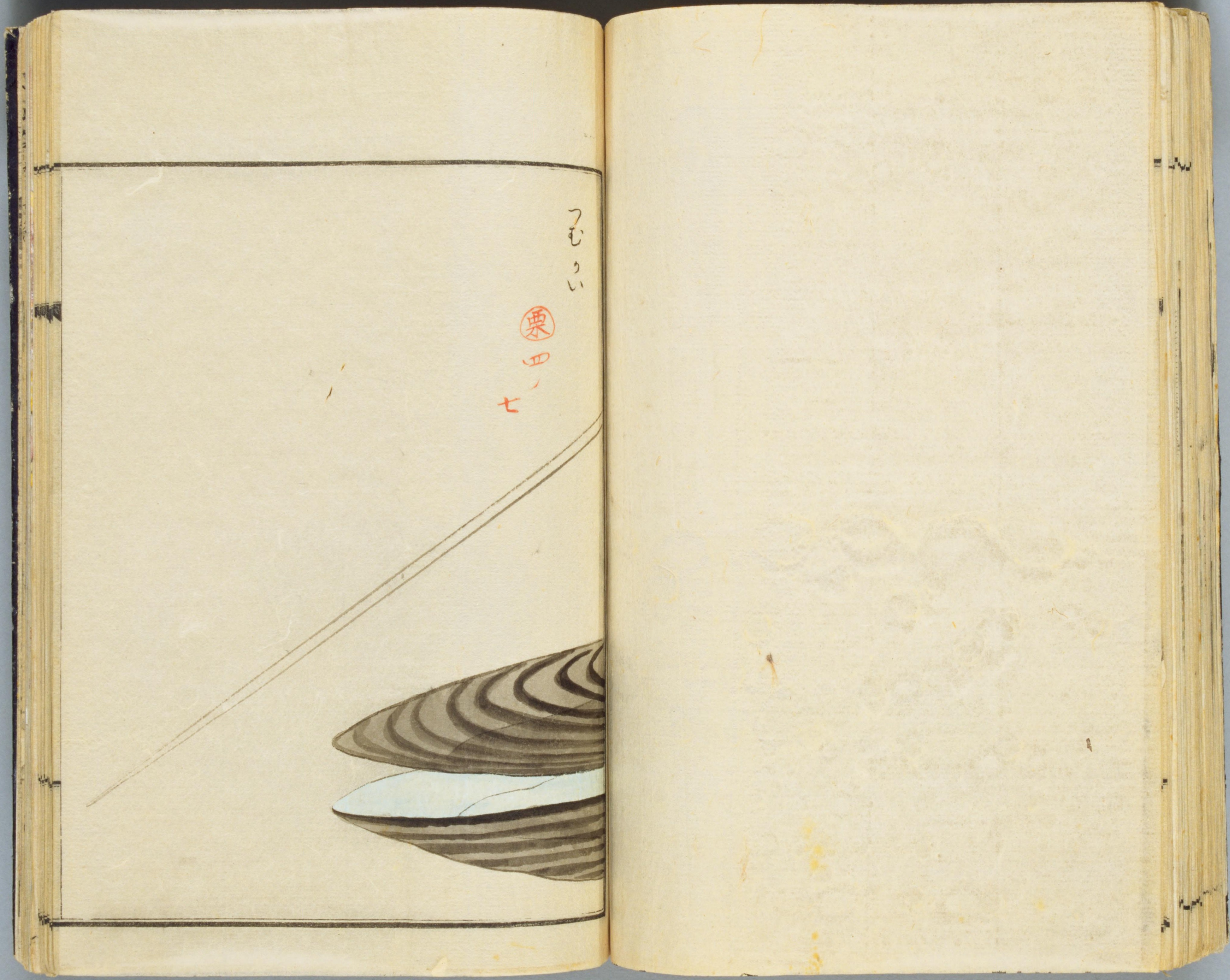
有肉 赤色 汁具 出子 糖 湯 中  
 菓 如 暑 似 田 舍 之 糖 屋 故  
 名 菓 中 亦 一 二 或 三 四 別 生 肉  
 出 菓 外 且 亦 以 海 參 為 少 糖  
 有 壳 如 紫 色 汁 肉 中 有 揚  
 味 甚 佳 香 似 海 參 氣 味  
 赤 色 以 糖 為 肉 食 或 似 醋 肉  
 甚 硬 亦 不 可 食 或 曰 平 子 所 謂  
 平 子 也 然 亦 是 物 另 見 亦



上ノ説ニ主文錦集伊藤  
 圭介先生ノ増補ニ  
 實ニ先生ノ自筆ナリ  
 孫 伊藤 篤太郎 識







つむい

栗  
四  
七



栗氏魚譜 10冊 寄別11-31 01- 087

国立国会図書館







淡菜東海婦人イガイ

其名ヲユリ

又云ハシクルセイ

栗四ノ八

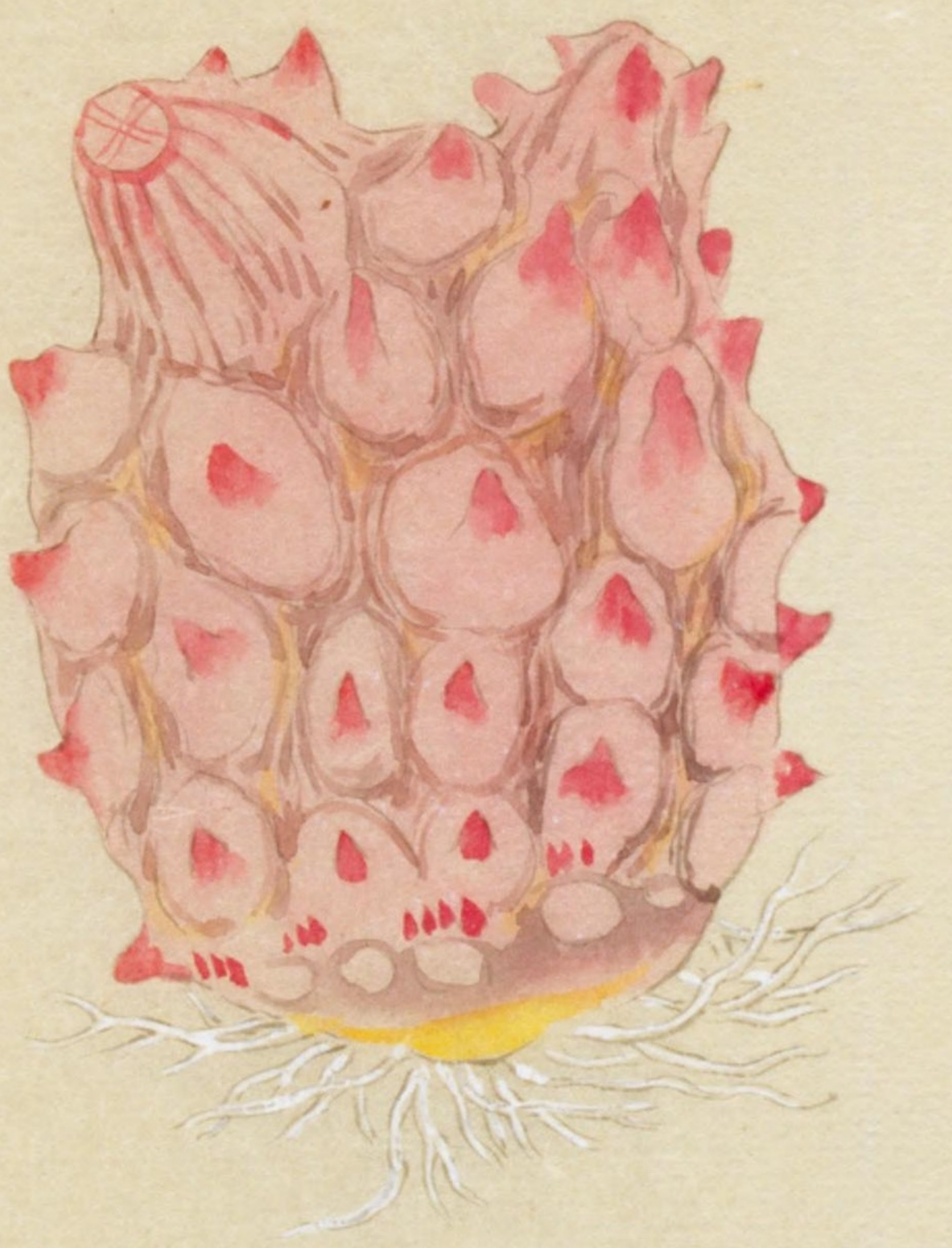




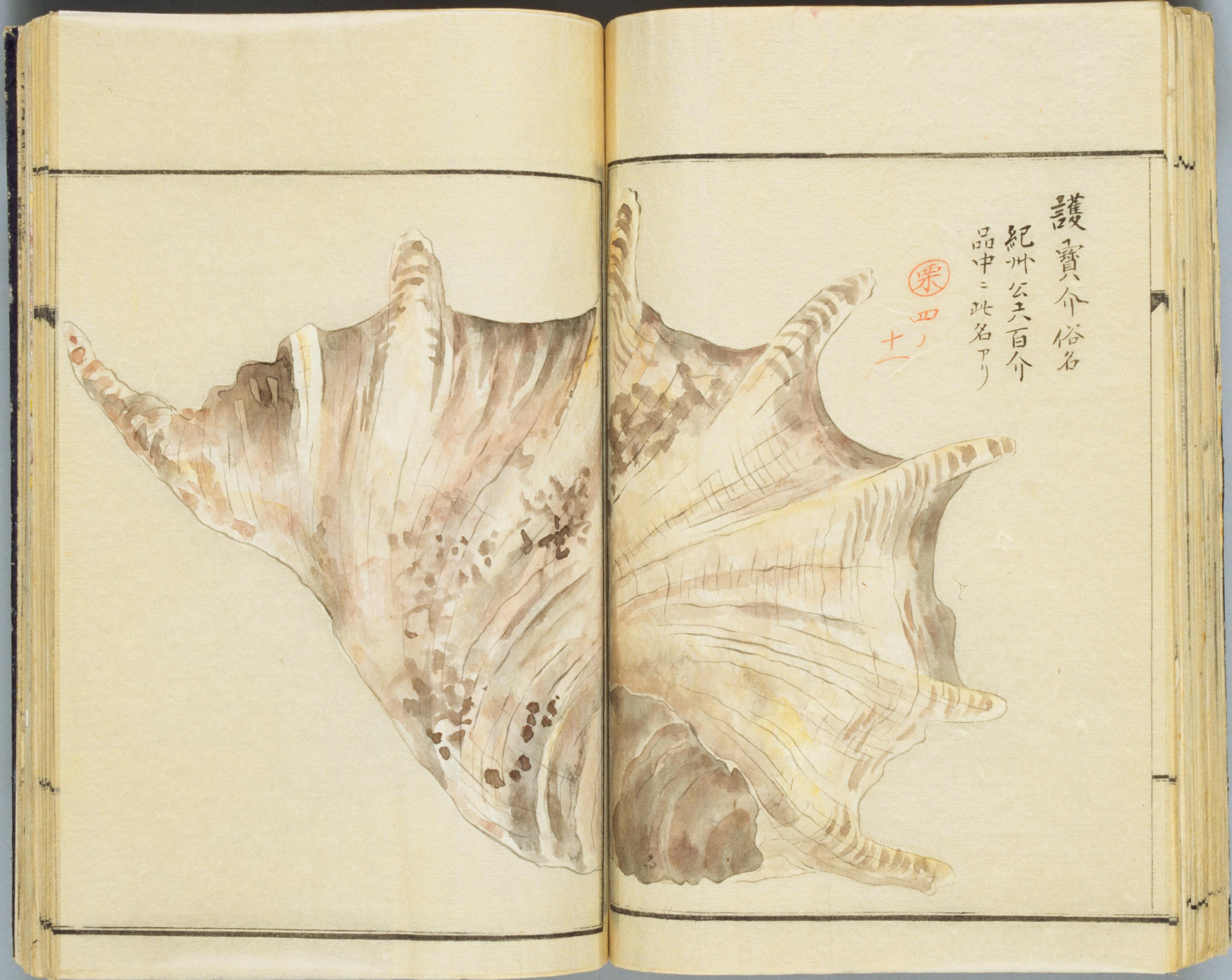


栗  
四ノ  
十  
ホヤ

栗  
四ノ  
九  
ホヤ  
夷名不知







護寶介俗名

紀州公六百介  
品中ニ此名アリ

栗  
四ノ  
十一







栗氏魚譜 10冊 寄別11-31 01- 091

国立国会図書館





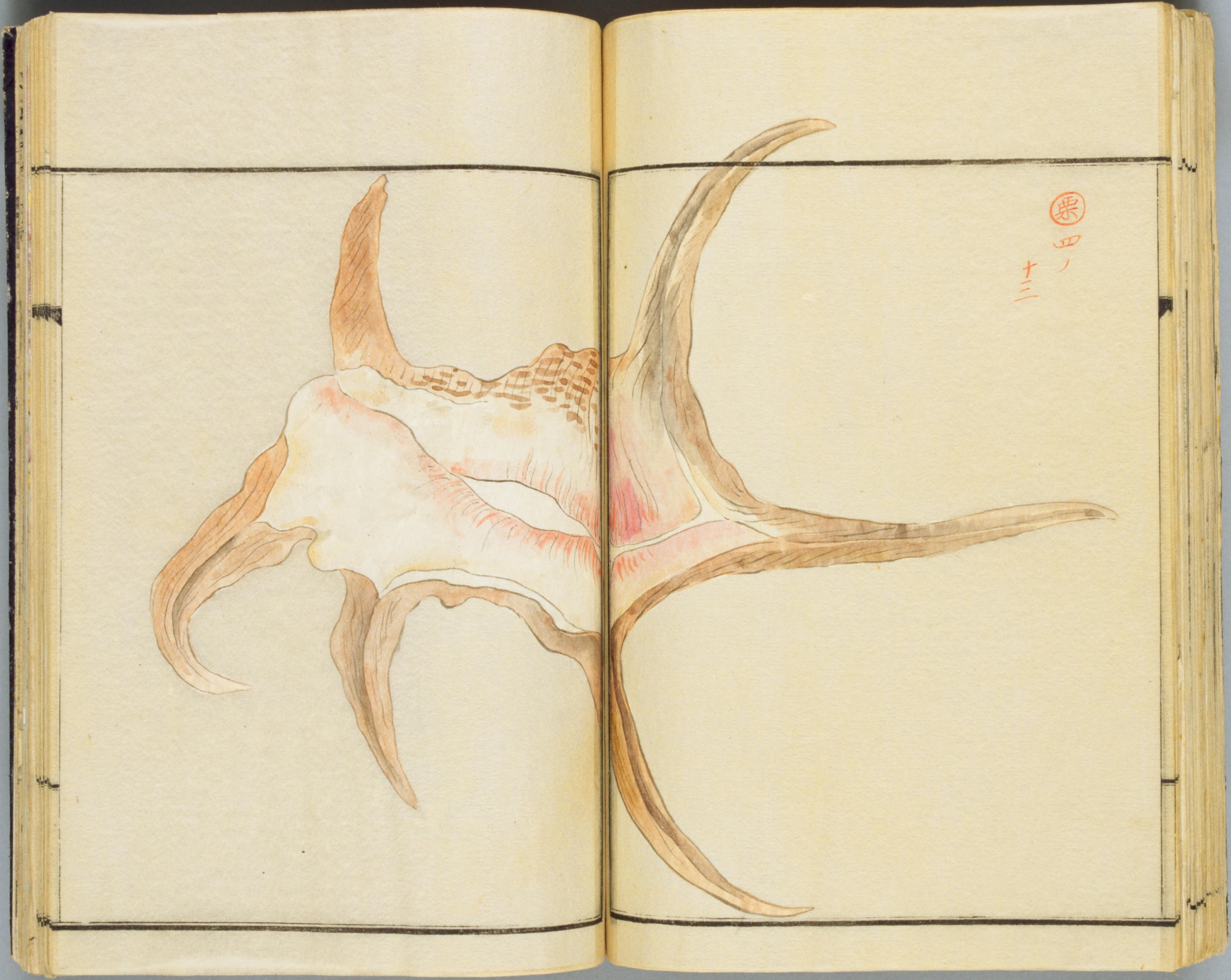


壁虎魚 クモガイ

栗  
四ノ  
十三







栗  
四ノ  
十三

栗氏魚譜 10冊 寄別11-31 01- 093

国立国会図書館





栗四ノ十四  
あけまき

煙小真蛸竹蛸の二品なり  
アケマキハ真蛸を江三ノ  
あし所のみまゝハ竹蛸をい  
此形の稚子に似たりをその  
名とす又總角むきハ似  
たる左の名ともハ泥五分砂  
七分の可ま生ハ夏の比多  
これを板敷小て掘出ハ近年  
ハ針うねのあきその先をす



曲く穴の口よりさし入指  
出ハに力を管をい云

あけまき

こま指甲螺なる色ハ砂七分  
泥三分の可ま生ハ二月比より秋の  
をハあし多しとハ土のうちにこの  
福ちとハものを入ぬちと  
砂より出るとハ又板敷ハ  
あても板とハハ貝ハ小毒あるを  
食して黄斑を急するものハ貝の  
形より出るとハ



栗四ノ十五

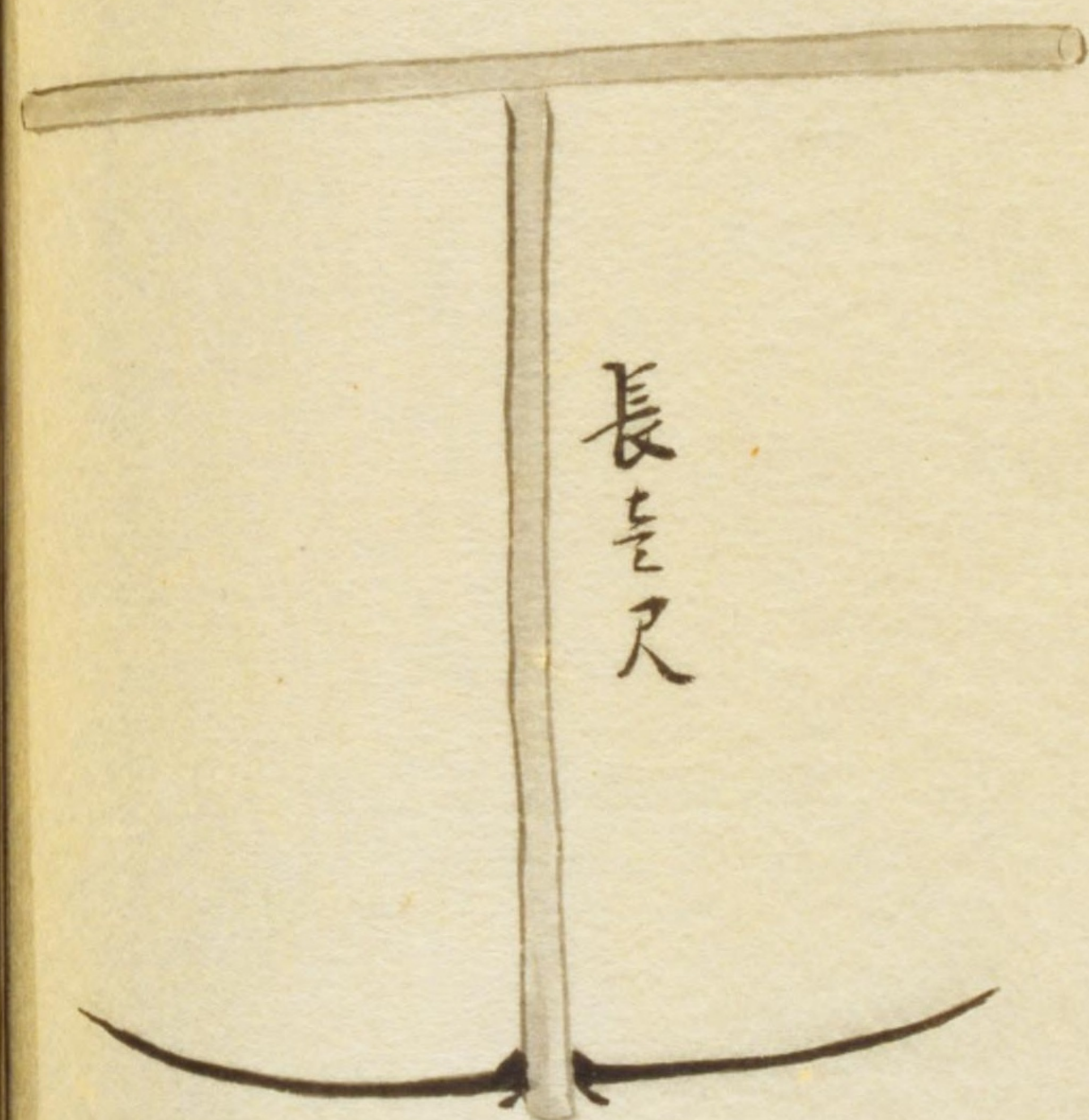




海川溝池にありて大小何れ  
 形亦少し其同ありといへ  
 ども蚌の一種なり食神は  
 ざるはよもの小あり是  
 馬刀形なるふく馬刀とマテ  
 小あはるあやまらるる  
 刺刀貝といふも同種なり

カラスノマシラ

栗  
 四  
 十六







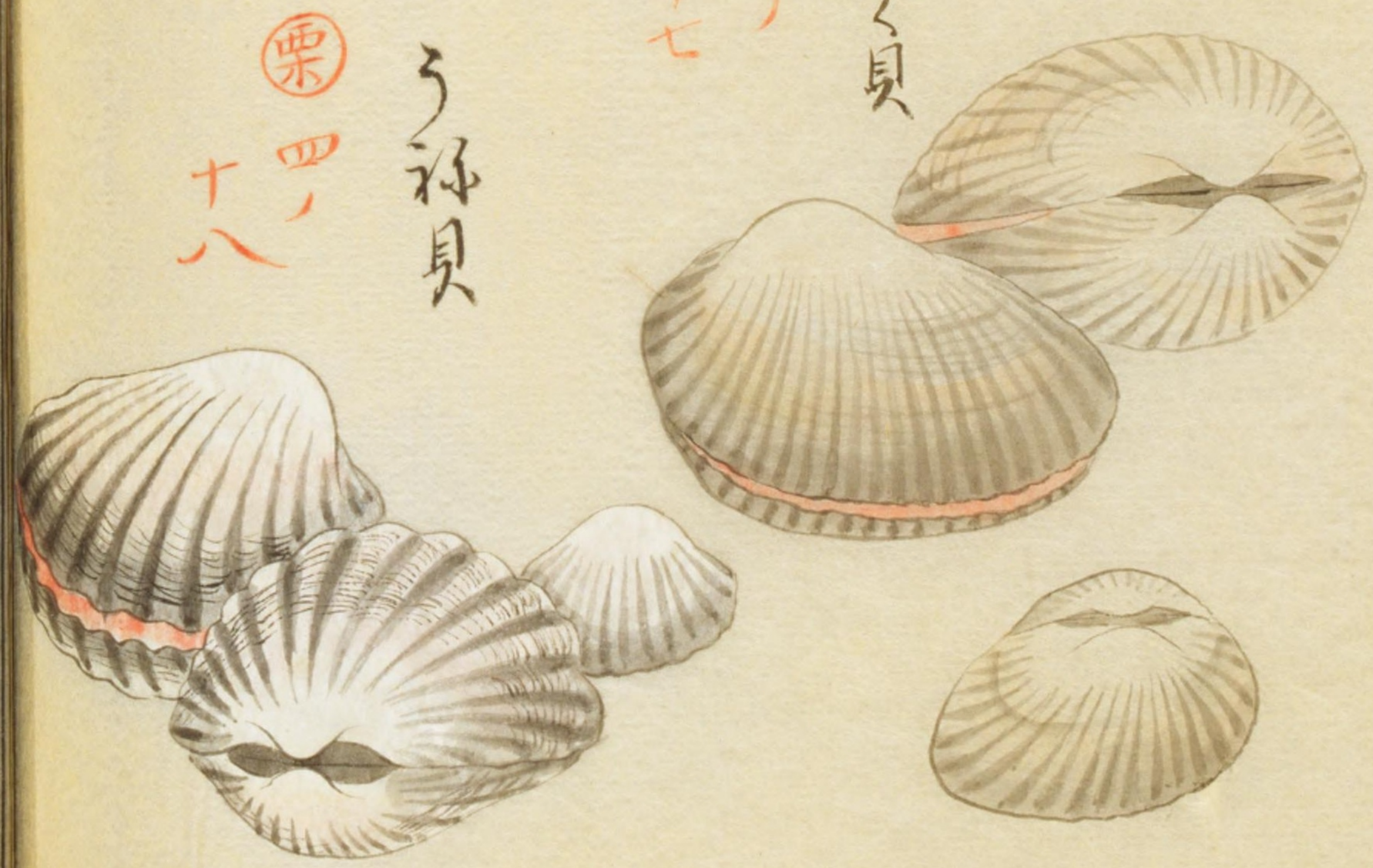
海より多しこれも蛭の類ふし又異なり貝殻く  
 やあれ安し此肉を人三寸のもの縮めると六寸と  
 なる二三月四月以来多くこれをとる海たけねち  
 としお物あり近年出産を用ひるさへ場とよ  
 其の少しこれをとる穴の狭しう深くさへ入る  
 腕の入るは神ち早し二座ありさへある座  
 貝損せし又進まひはよく水小馴るるそのハ  
 汐満て海たけも土を出たら考汐を潜り二ツ  
 三ツも一度にさへあるとよ

ナルナク  
 朗壳赤貝田種之物

山しそウ子貝ハ花ぢ  
 大小ともに十七ミロツ  
 貝ハ三十二ツあり砂  
 少も泥少も生底

みろく貝

う種貝







海  
夕ヶ

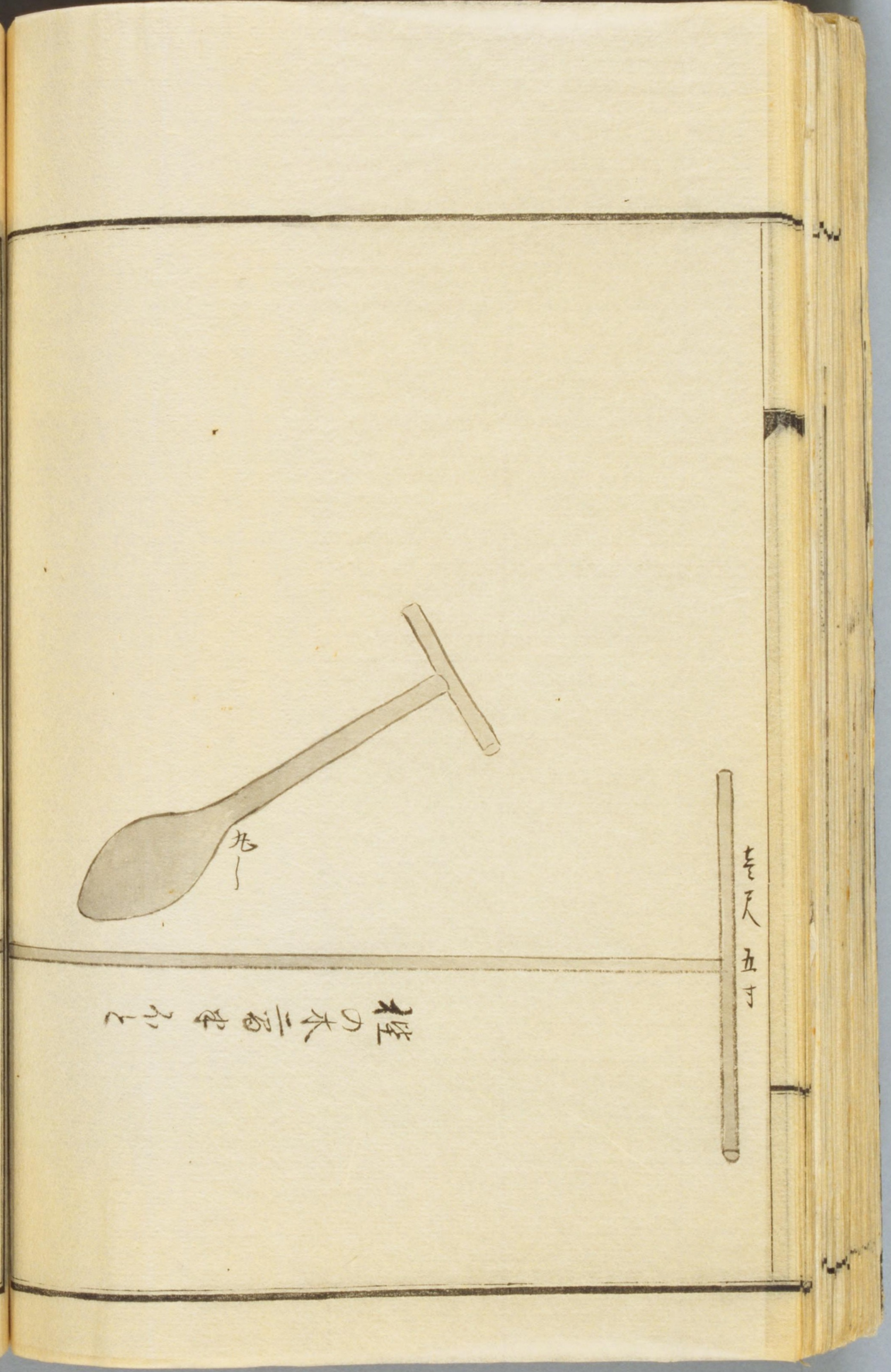
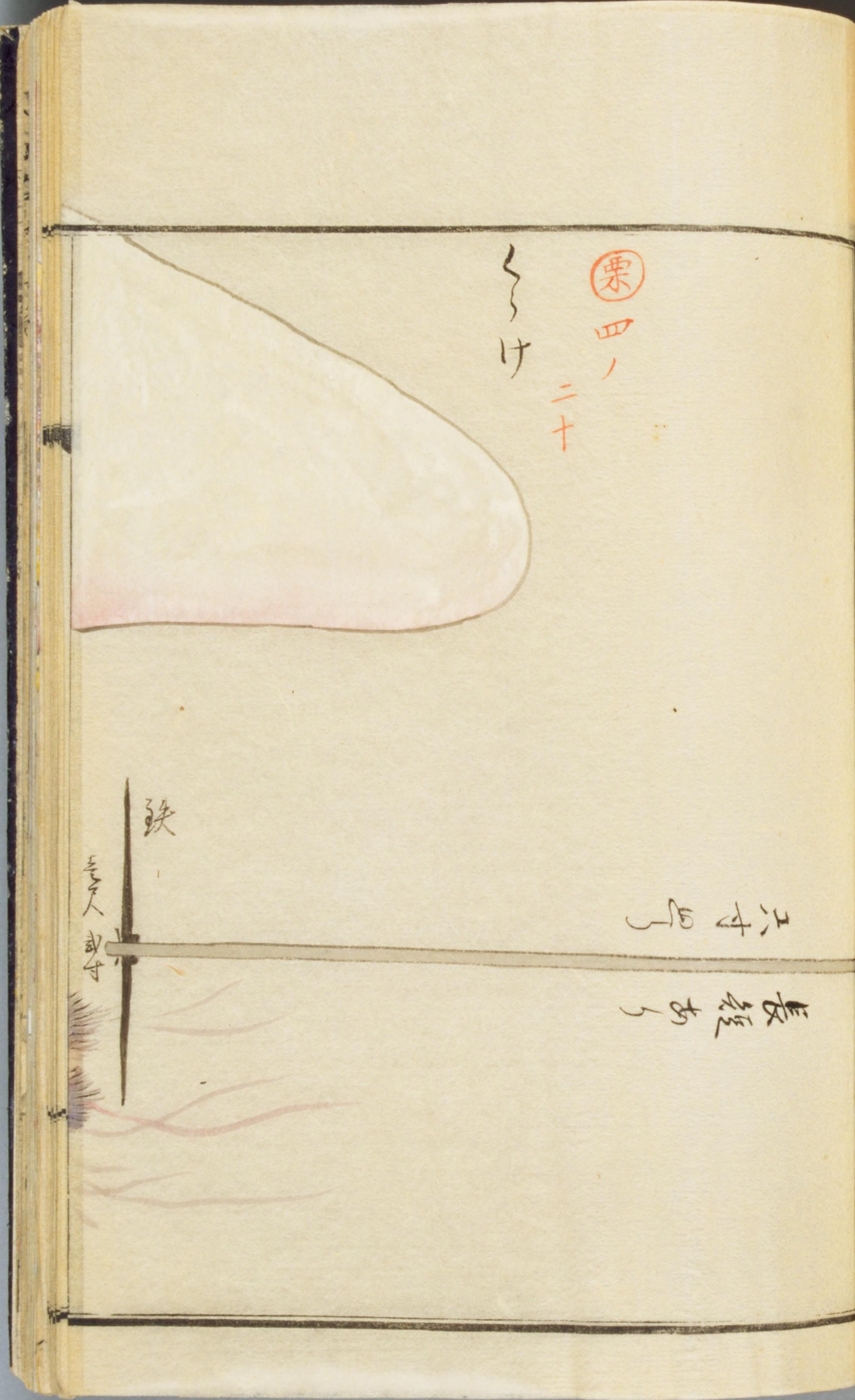
栗

四ノ

十九









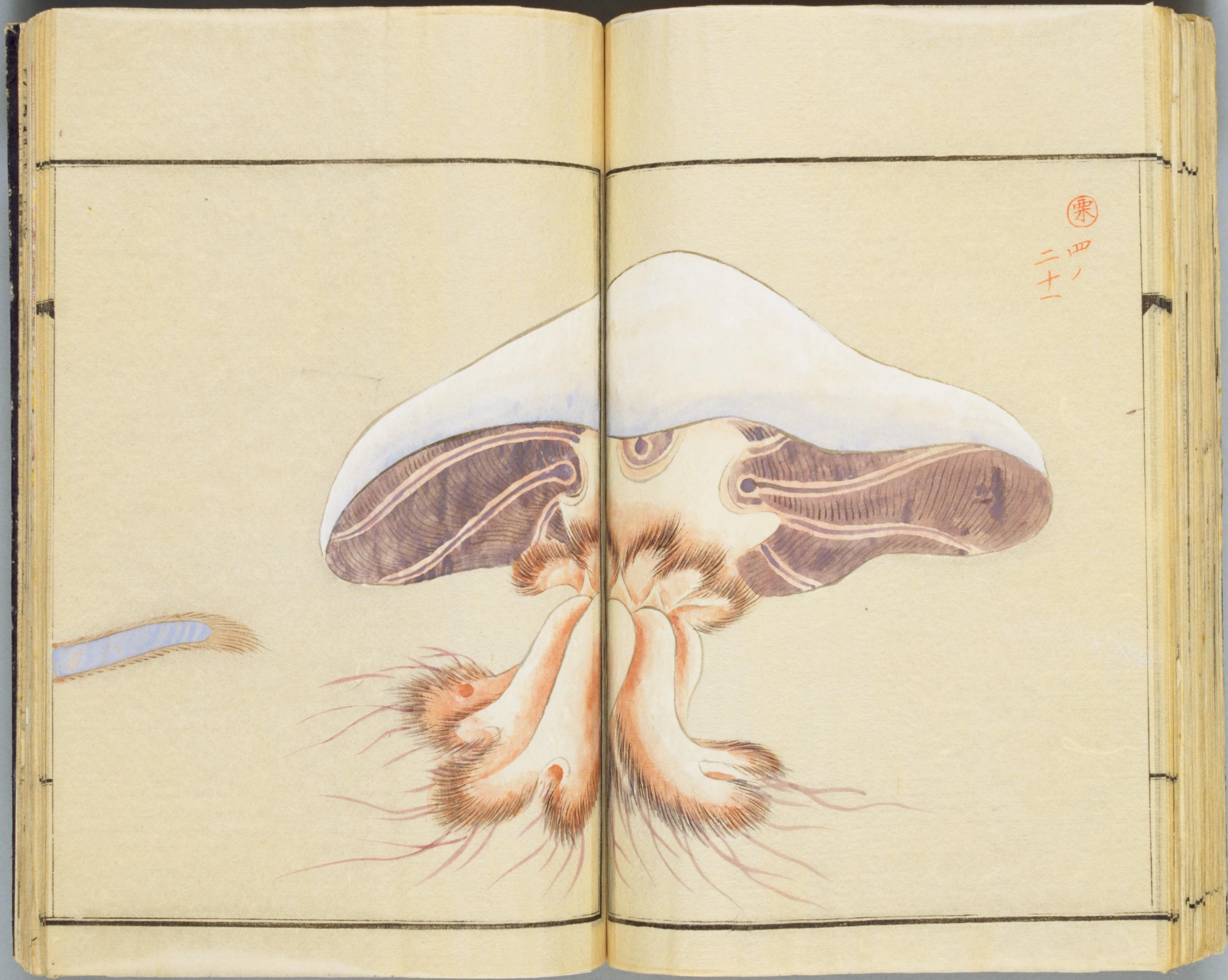


海月  
 海蛇海鏡  
 標蒲魚何れも  
 クラゲ小あつれも  
 海月ハわそれ貝海鏡ハ  
 月日貝なりとツト後も  
 あらハクラゲ古昔より大郷良小○

○用ひられし古書  
 名へたりこれとこも少  
 六七寸なるの目の細と  
 毛りてこれ小わらる常風に向ふて  
 ゆく風強けきこ吹もせらるるも  
 ありと物の若小驚くも子  
 耳あれとも目分一振ともつ  
 目とまとい少事一何そあ三月七  
 月迄まで多し







栗  
四ノ  
二十一



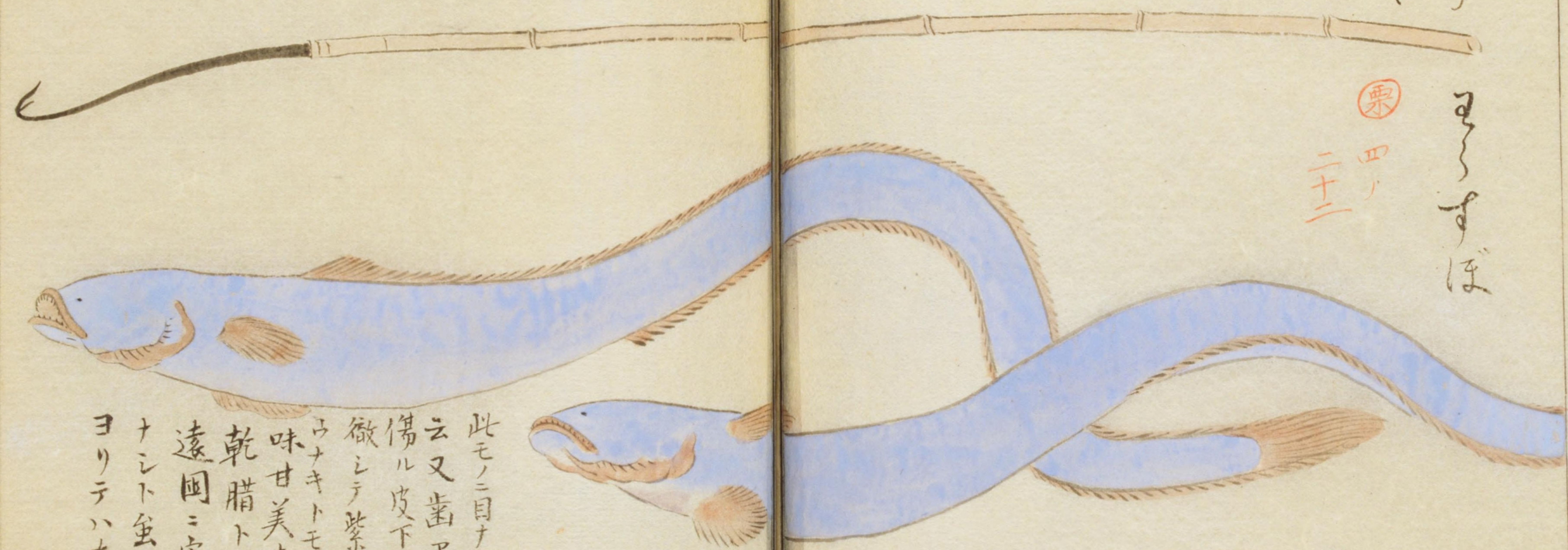




他國小目魚  
 あきとよあきと  
 きけり日物  
 ありへー又アヲコ  
 とよそのあきて  
 鱒の字とあきて  
 あくすま考  
 へん  
 海川ともに  
 泥のうちふ  
 生れ飛竿を  
 せて泥のうちふ  
 入て捲くま

身長サ  
 五六尺  
 狭き天位

ふりりもこれ  
 してとる二月以  
 ち八月以迄  
 多し

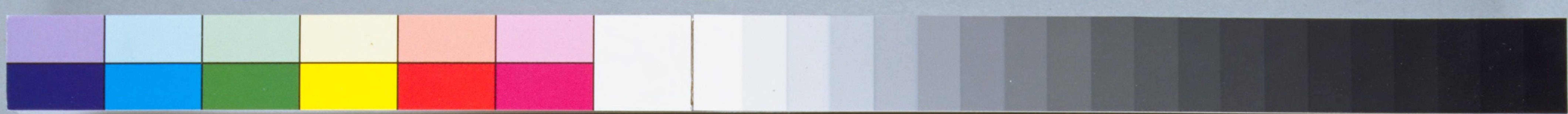


栗  
 四ノ  
 三十三  
 魚すぼ

此モノニ目ナレ因テメクラウナギト  
 云又齒アリ至テ利鋭物ヲ  
 傷ル皮下ニ血アリ皮面ヨリ透  
 徹シテ紫色ニミユ故ニ赤血  
 味ナキトモ云土人兩テ食フ  
 味甘美ナラスト金氏毒ナシ  
 乾腊トナレテカ物トナシ  
 遠國ニ寄贈ル他州ニ絶テ  
 ナシト金氏亦タマク國小  
 ヨリテハ在ト云







此魚後小刀の刃の如く  
 薄くすと也亦白刀魚  
 の名を假名遣書の後  
 此ぎのこゝ上唇下  
 下りて長く尖利なりて  
 細刺あり骨のこゝ又他  
 魚不異る処あり干乾  
 腊をももの鱗多ふ  
 うろこもろく落やき

栗

四ノ  
 二十三



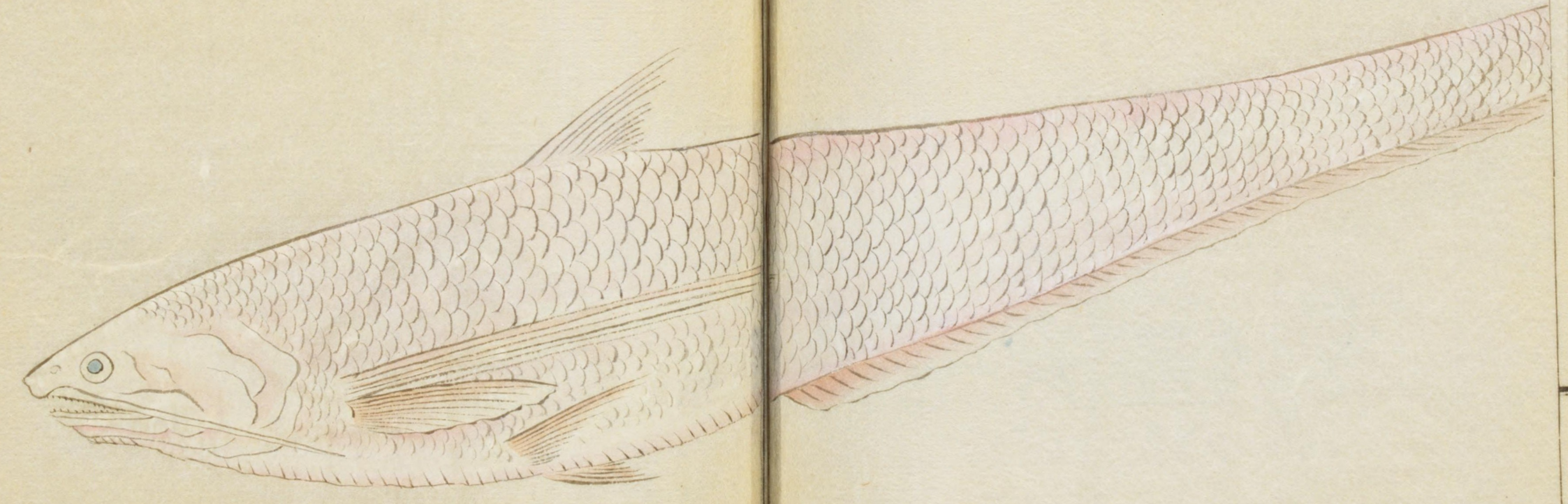




栗四  
魚 二十四

鱒魚これ小河  
此魚他國小  
あまききうん 筑後  
川小川  
思ひる海川の  
あり四月に  
まて引網  
とら六月

海小  
初

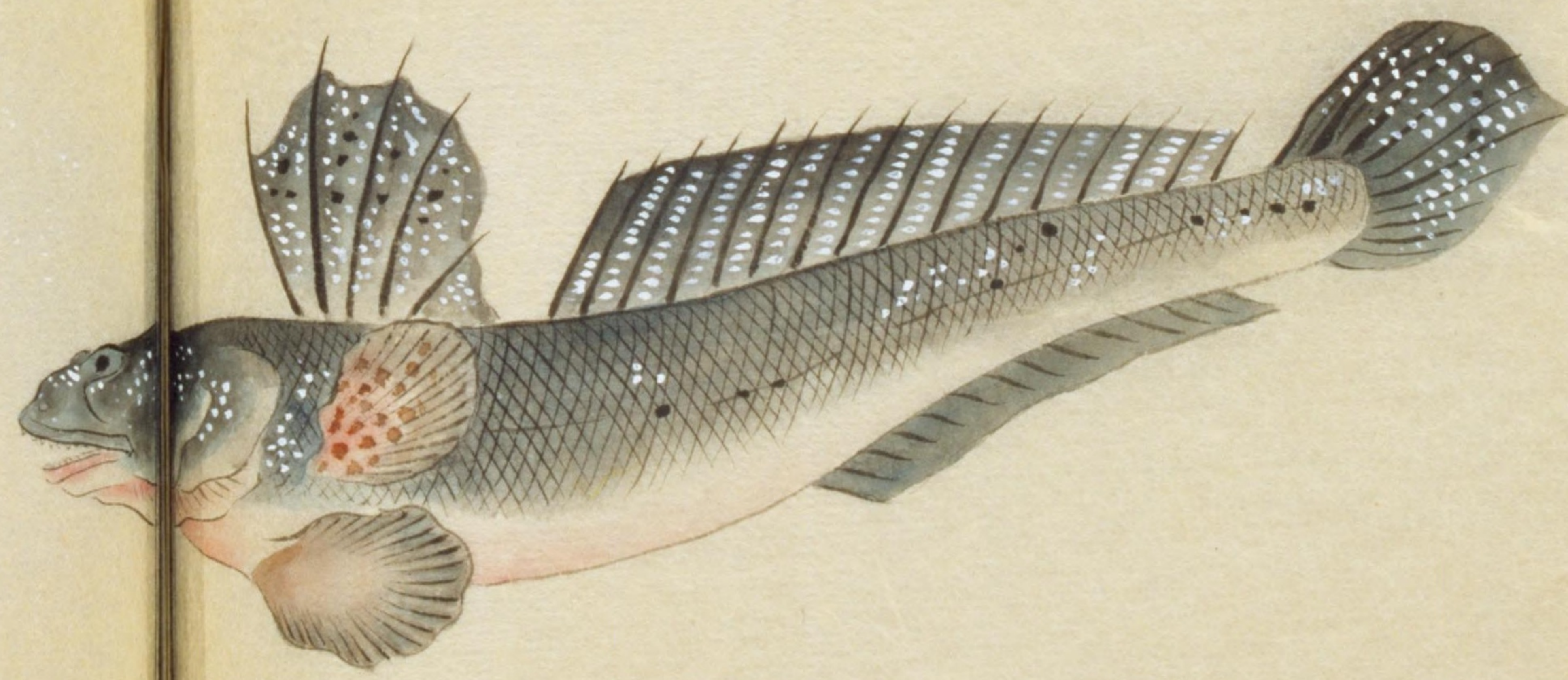






むつごろう

栗四、二十五



ムツゴロウはコロウハ  
漁者の云流もあらず

此魚泥の中穴を数金

かくもなま細小の紺に

かくもなま泥の上はあつた右の

緒と是のこまゆを花あつて

もれしやまからゆへ是をさす

長さ二尺半の竿も人短く糸をつけ

そのこまふ此針をつけ五尺ほど先示

めり牙と魚のむきやうを投やうあつて

釣しむせらなす

重サ二十五匁位  
針のふちあり







九月十月に釣つてハ  
 其又或三寸まれハ  
 ニッ人ふちうきもの  
 あら釣小ハ  
 細少てもこれを  
 とれ

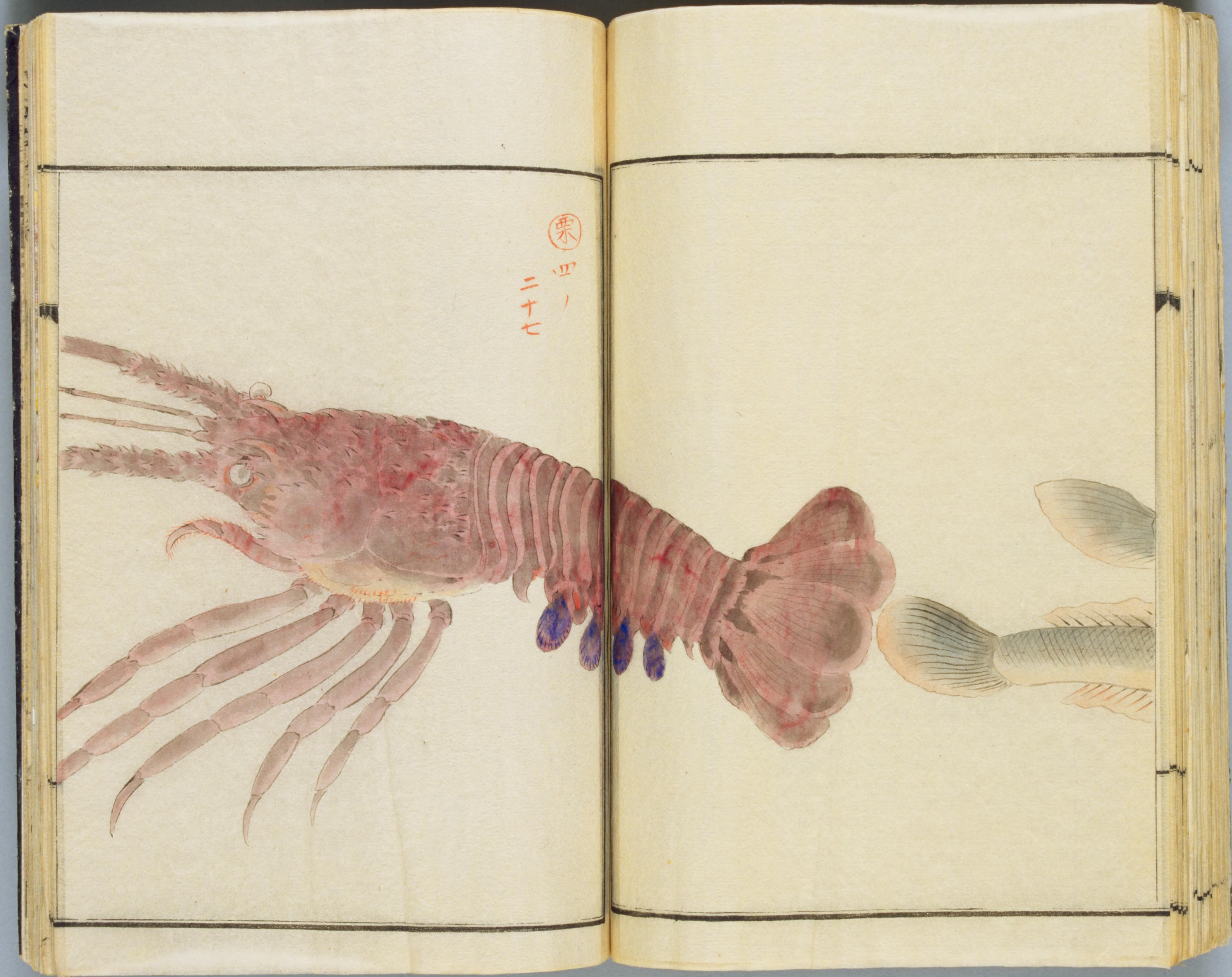
ハゼクチといふ口の大きなる  
 魚なるこれハ漁者のつひ  
 凍たり若くハ一ハ地り  
 ぜの大きなる  
 あるるときん  
 二月の末のハを  
 江戸の二葉の如く

とせくち

栗四ノ  
 二十六







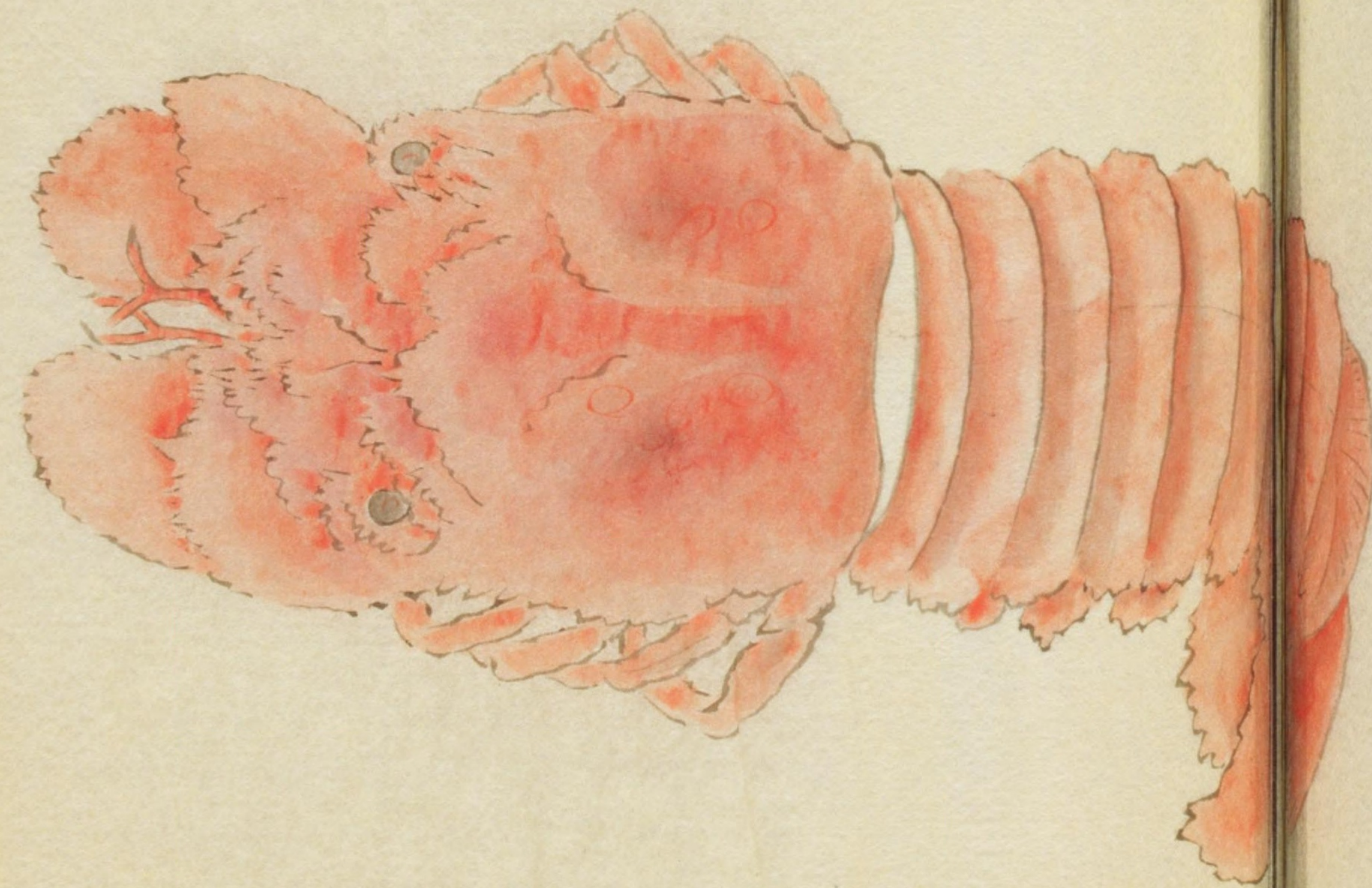
栗  
四  
二十七







栗  
 四ノ  
 二十八  
 ゼエカウエビ 記世  
 ハラ黒色ノ処多シ  
 ミニクシ







平家エビ

栗四ノ三十



みぢハエビ

西国方言

タクマエビノナリ

相州小田原方言

シツパタキト云

在活ノ時尾

端ニ沙石ヲ

ハタキ飛ス

數尺其度ニ

前ニ躍リ進ム

一尺餘也ト

故ニ此名

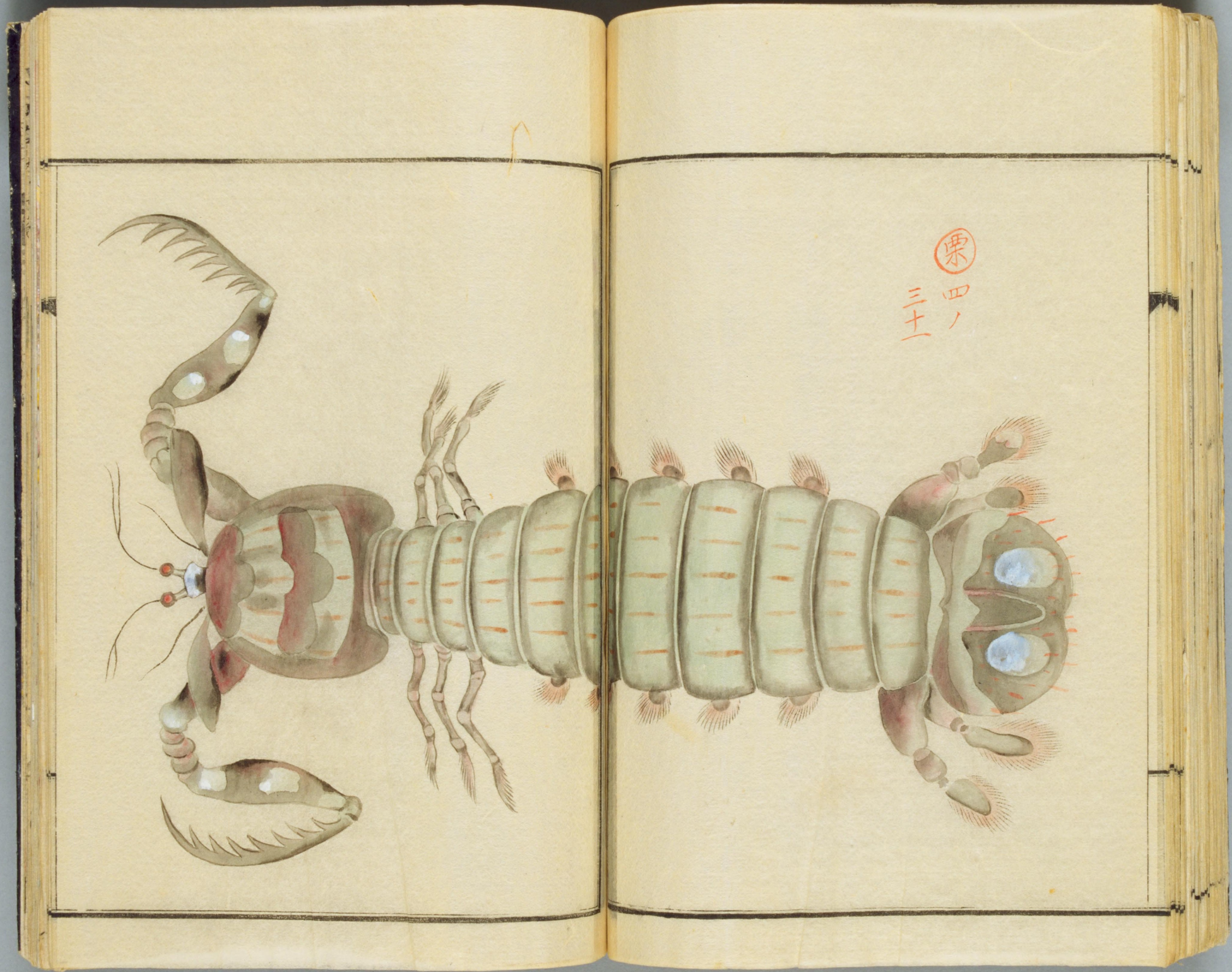
アリ

栗四ノ

廿九







栗  
四ノ  
三十一







栗  
四ノ  
三十二











朝日蟹 薩州産 按此品千人辟之極大者奇品也

栗四ノ三十九



栗四ノ三十七



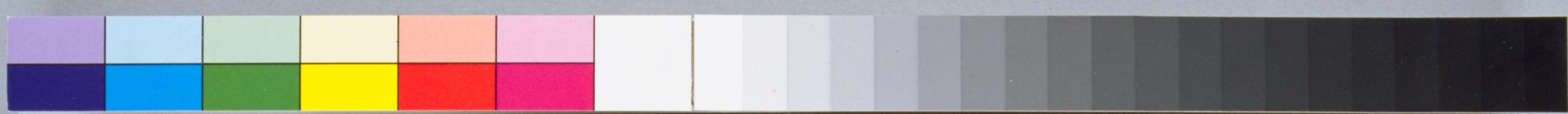
栗四ノ三十六



栗四ノ三十八

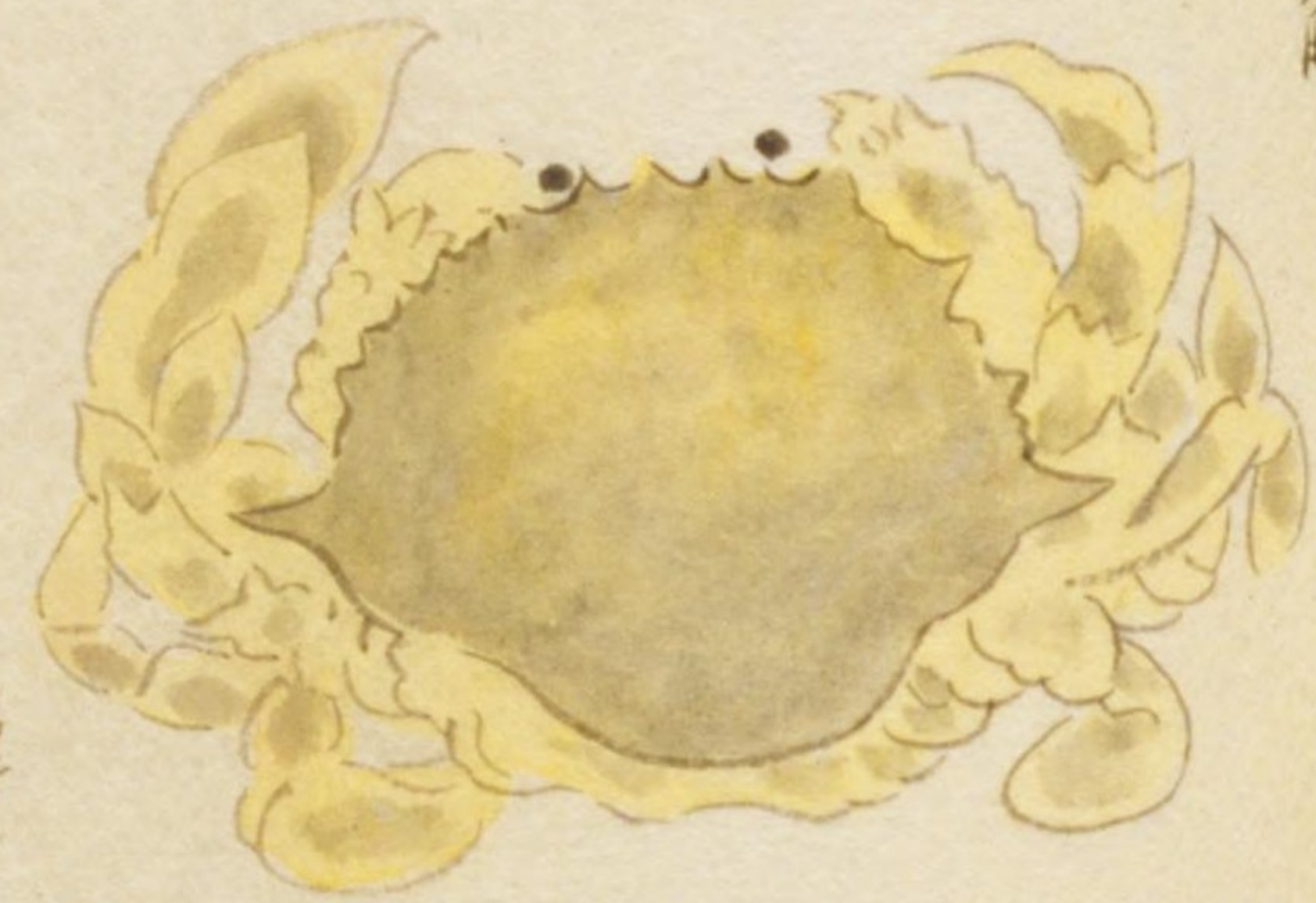






カミナリ解虫

栗四ノ  
四十一



小蟹



好テ

上焯菜ヲ啖フ

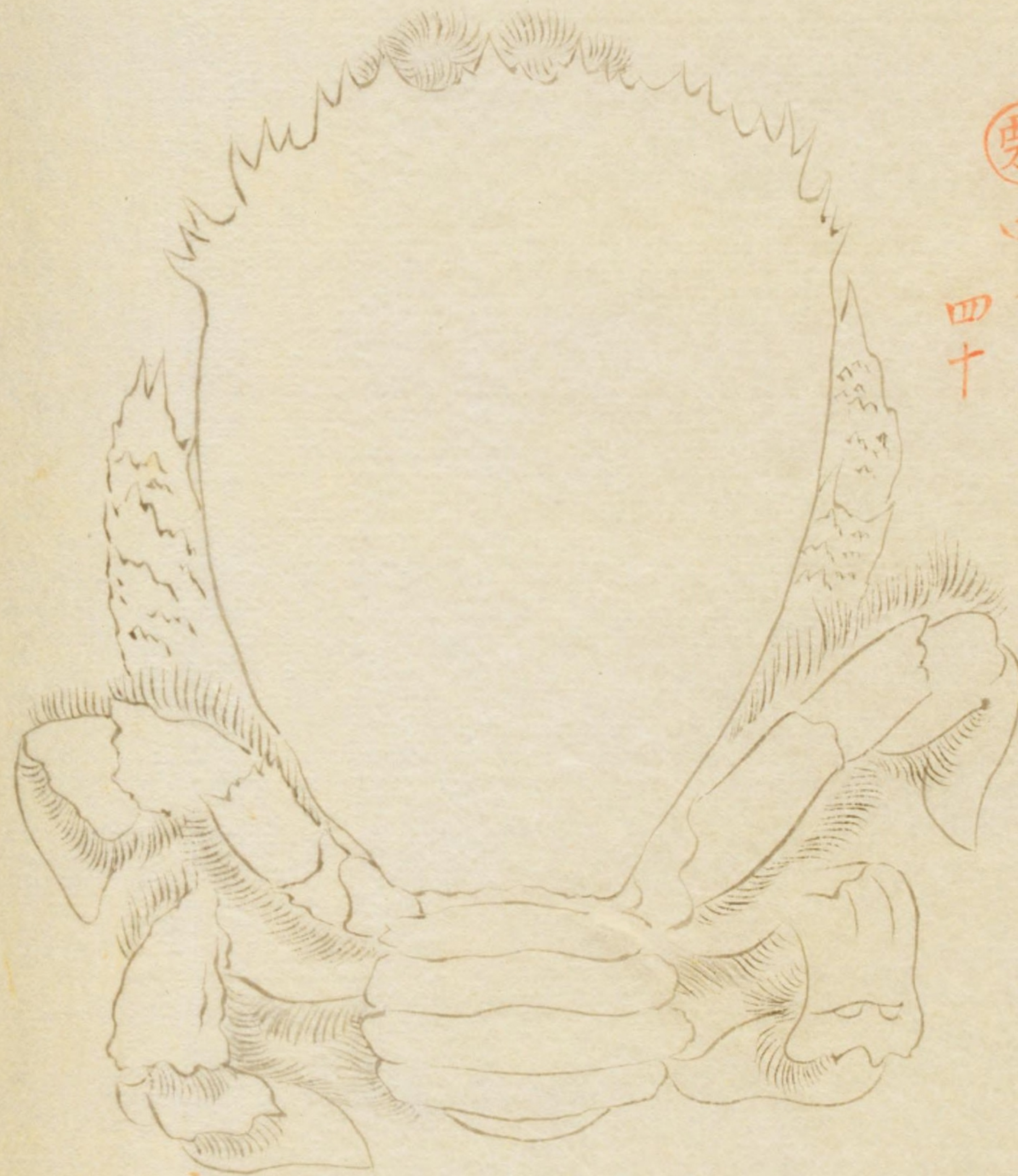
栗四ノ  
四十二

此蟹ノ多キ溪洞ニハ焯菜ヲ不作ト云此物火上ミテアブリ啖ハ味美ナリト云



辰五月十三日 函蘭温泉アル処ニアリ  
沢ガニ清泉ノ出ル山中ノ沢ニアリ  
核  
オレムシ  
背ノ  
西ノ  
カバ

栗四ノ  
四十







栗四ノ  
四十四



栗四ノ  
四十五



栗四ノ  
四十三



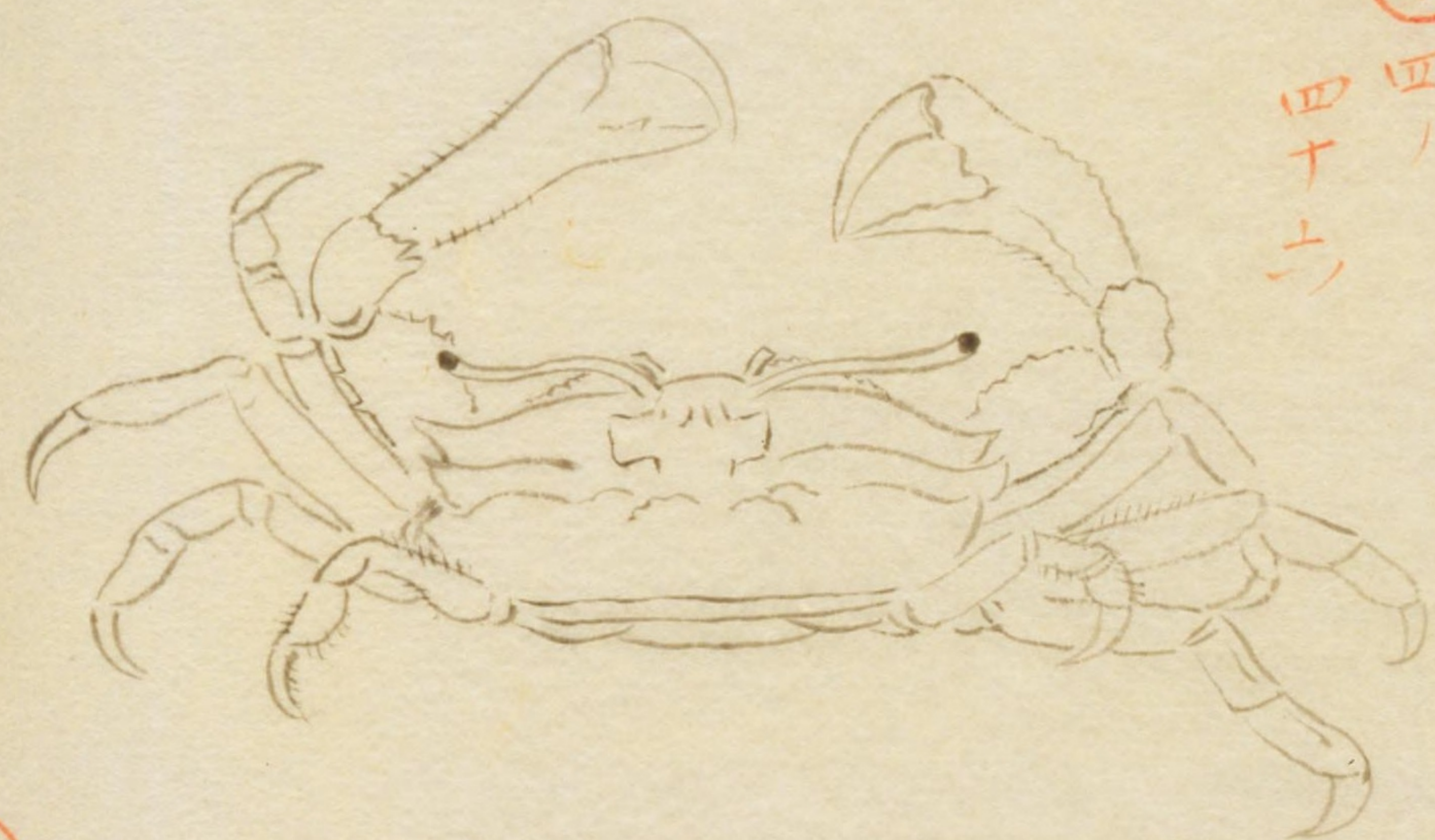




栗  
四ノ  
四十九



栗  
四ノ  
四十六



正字通云殼色  
青白潮欲來  
出壳舉螯迎  
之曰招潮  
シオマ子キ  
タウチガニ

栗  
四ノ  
五十



テニホ蟹  
知多ノ  
海中ニ有

栗  
四ノ  
四十七



栗  
四ノ  
四十八







寄生蝦  
 ヤドカ  
 ゴリ  
 ナノ大ナルモノ  
 (栗四ノ)  
 五十二



(栗四ノ)  
 五十一





此蟲長七八寸卷回徑六寸許上半身ハ如蝦  
 下半身ハ細長シ肉柔觸之ハ破裂スヘキ如ク  
 至柔カナリ脊ノ通僅ニ皮アリ左右ニ鬚ノ如キ  
 皮アリ頭上ハ甲アリ青碧色紫黒斑アリ兩股黒  
 斑紋アリ脊ハ朱紅色ノ皮アリ皮ノ縁ニ茶褐  
 色ノ細毛アリ刺ノ如シ眼黒色シハ長鬚ハ  
 蝦ノ如クシメ短青綠色四長足ニ短足ニ  
 紅色ノ小足アリ口ハ青碧色ニ組綬ノ如  
 ク皮ニ疊ミタリ節ニ紫黒ノ横斑アリ又  
 茶褐色ノ毛長ク周ニ生ス丸ハ黒色ニ  
 螯ハ足ト同色形田ノ肉厚シ頷下ヲ相護  
 スルノ状アリ口ノマハリニ小鬚二分許ノモノ五六  
 條アリ尾端ニ又微小ノ螯左右ニツヅアリ  
 遍身ニ毛多シ光彩甚美觀ナレ尺形醜惡  
 不可充食モノナリ

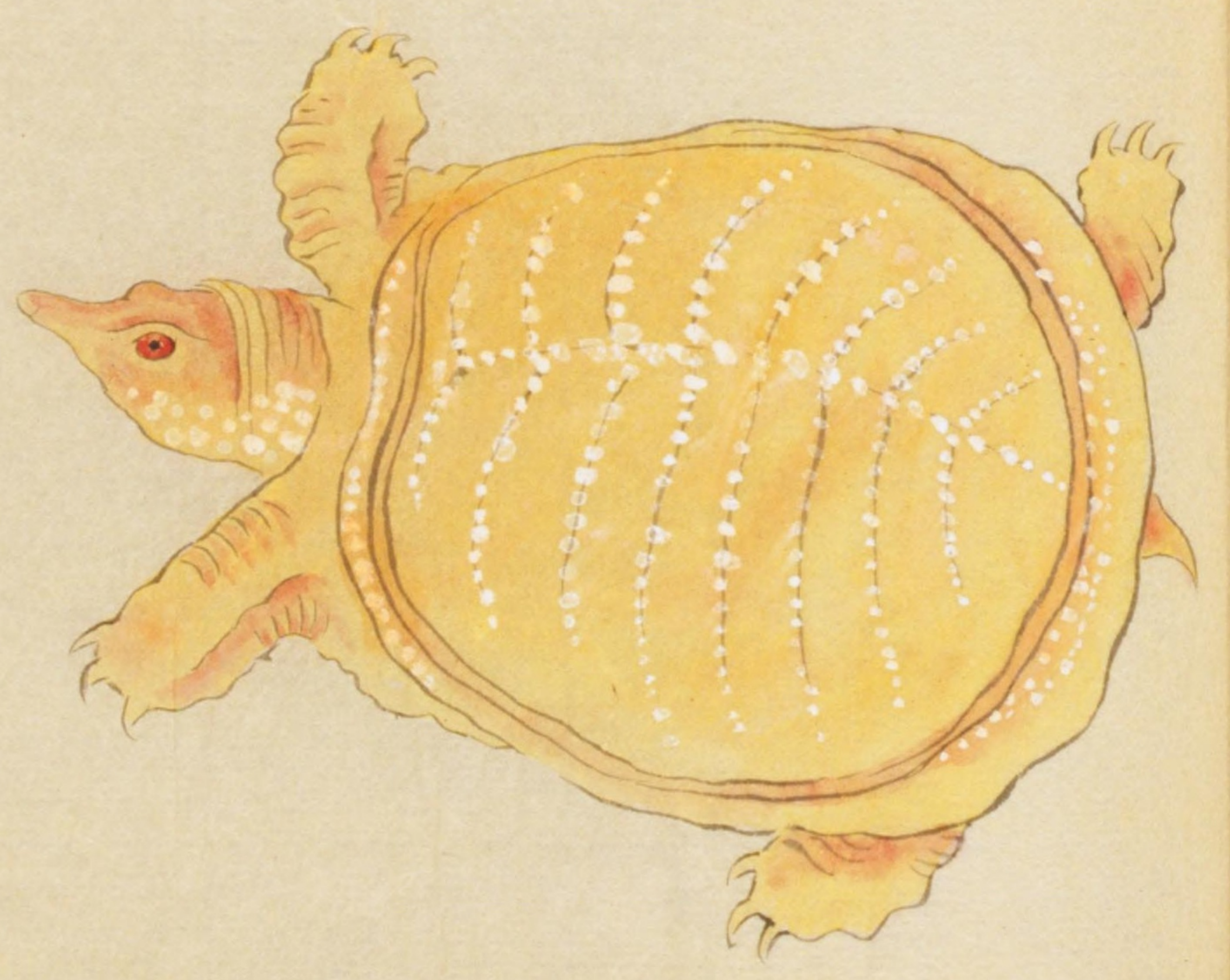
栗四ノ五十三



朱敵龜

西丸市小姓組建部六右衛門  
 所祕畜者瑞見訪其家  
 親看而写了文政甲申  
 八月念三日

栗四ノ五十四



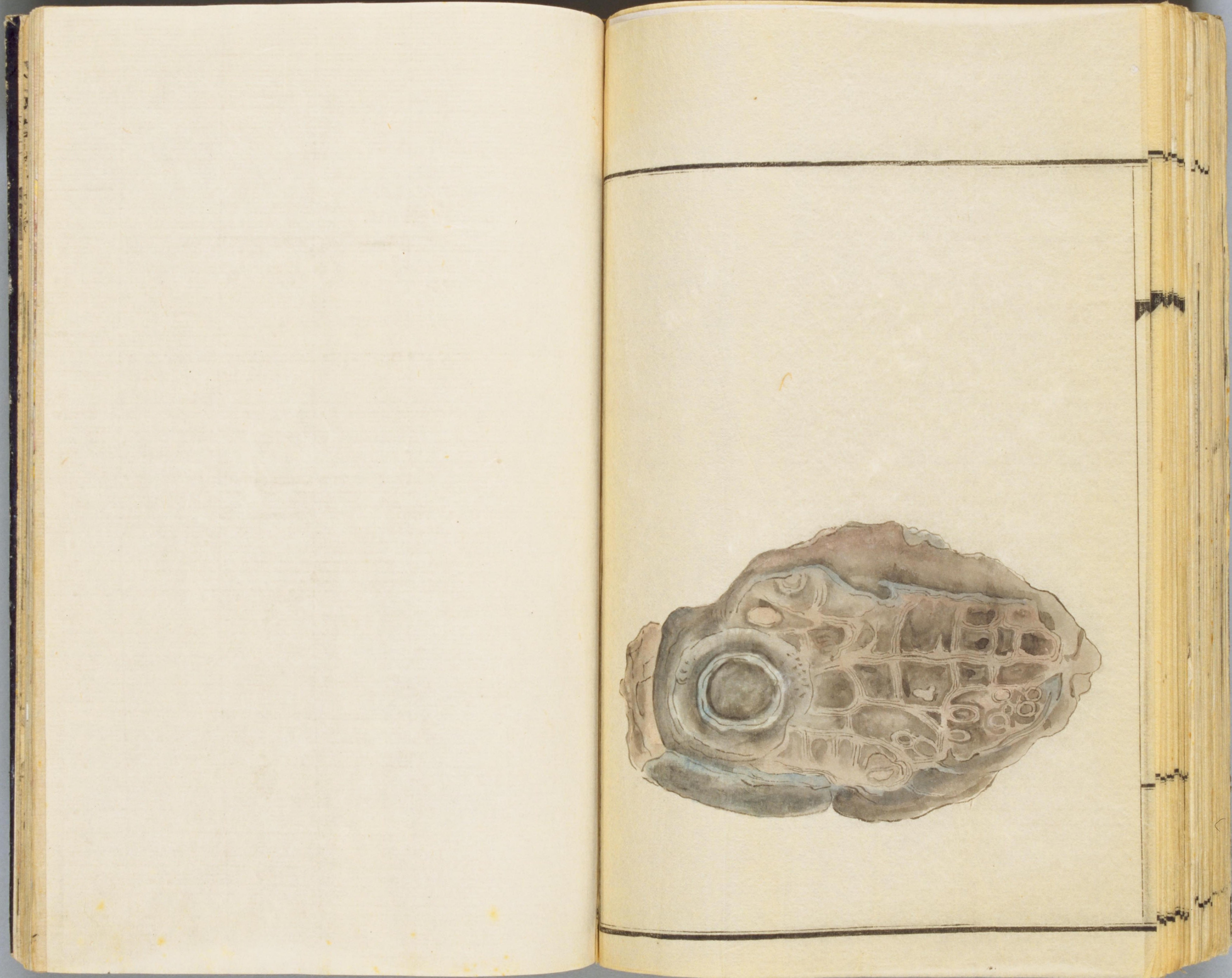




肥前平戸産  
石龜  
栗(四ノ)五十五  
夷堅志  
平戸方言  
龜石ト云







栗氏魚譜 10冊 寄別11-31 01-119

国立国会図書館







栗氏魚譜

五

栗氏魚譜 10冊 寄別11-31 01-120

国立国会図書館

